

# SYOHEI ニュース 令和8年7月号

## 国民健康保険まごころ病院の概況

所在地 〒023-0401  
奥州市胆沢南都田  
字大持 40 番地  
TEL  
0197-46-2121  
FAX  
0197-46-2203  
URL



<https://www.city.oshu.iwate.jp/magokoro/index.html>

E-mail [magokoro1@city.oshu.iwate.jp](mailto:magokoro1@city.oshu.iwate.jp)

診療開始年月日 平成8年4月1日  
標榜科 内科・外科・小児科・整形外科・  
消化器内科・循環器内科・歯科口腔外科  
許可病床数 48床  
(一般16床 地域包括ケア32床)  
看護の体系 一般病棟入院基本料 10:1

### 診療職員数(R8.4.1現在)

職種	正規	正規以外
医師	6	1.88
歯科医師	3	0
薬剤師	2	0
看護師	28	8
その他の技術職員	13	12
事務職員	3	7
その他	1	1
総数	56	29.88

### 主な設備の概要

内科：80列CT装置・MRI(1.5T)・内視鏡大腸ビデオスコープ・汎用超音波診断装置・血圧脈波検査装置・多用途心電図解析装置・多項目自動血球数装置・骨密度測定装置・関節鏡・デジタル医用画像システム・携帯用睡眠時無呼吸検査装置・人工呼吸器

歯科：フリーアーム・手術機器滅菌装置・鑄造機・歯科技工用ユニット・半導体レーザー手術装置・光重合器

### 勤務医師 6名：歯科医師 3名

職名	医師名
院長兼診療部長兼内科長兼循環器科長	伊藤 正博
副院長	八鍬 誠
医務技監	及川 雄悦
内科医長	小幡 紘
内科医師	津島 太陽
整形外科長	今淵 隆誠
歯科口腔外科長	角田 耕一
歯科医長	遠藤 寛樹
歯科医長	柳谷 隆仁

### 健康福祉活動

内科：特定健康診査・学校医・尿・便検査・貧血検査・結核精密検査・特養老人ホーム「ぬくもりの家」嘱託医・特養老人ホーム「さくら」嘱託医

歯科：歯科検診・う歯予防検診・訪問口腔衛生指導

### 3つの『ライフ』に向きあう病院

まごころ病院長 伊藤 正博



まごころ病院は奥州市胆沢地域にある48床の小病院です。農業を主産業とする胆沢地域は水田に囲まれた住居が散在する特徴的な風景が広がり、日本三大散居集落の一つに数えられています。当院もその風景の中にあります。地域住民の農繁期と農閑期の忙しさの違いが当院の外来受診者数に反映し、診察室で少し手持ち無沙汰になった時には、地域の皆さんの『生活』に思いを馳せることがあります。

ところで、『生活』を英語では『life、ライフ』と言いますが、この『ライフ』、幾つか意味があります。①命や生き物としての意、②生活や暮らしの意、③生涯や寿命の意。

まごころ病院は3つの『ライフ』にそれぞれ向き合っています。

それぞれ以下のようなところでしょうか。

- ① 命があり病気を有する患者さんに対しての日常診療
- ② 地域住民の日常の暮らしを大切にする地域包括ケア活動
- ③ 天寿を全うしようとする患者さんに対しての在宅医療、など

当院の日常の仕事にあてはめてみましたが、全て『ライフ』に繋がっています。

実はこういう言い方もできるかもしれません。地域住民の『ライフ』に向きあうことが地域医療である、と。

奥州市は程よい町のサイズ、食、自然、史跡、アクティビティ、そして人。

奨学資金養成医師の皆さんの『ライフ』を満足させるものが多々あります。皆さんが当市に着任し活躍されることをお待ちしております。

### 大谷翔平選手の成績ボード (R8.6.24現在)

打者 試合76 打率.293 本塁打17 打点45 盗塁6

投手 試合12 防御率1.47 勝利7 敗戦2 奪三振78

8.6.20 大谷選手第2子誕生を報告：おめでとうございます!!

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。  
令和8年6月25日発行 奥州市医療局医師確保推進室  
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833  
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第75号

奥州市HPの中の「奥州市の先人」コーナー。今回は「後藤寿庵」をご紹介します。

胆沢の地に美しい田んぼを残した開拓者：「<sup>ごとうじゅあん</sup>後藤寿庵」・・・(1590年頃)

どこまでも続く青々とした田んぼ・・・私たちのふるさと奥州市は、現在県内有数の米どころとして有名です。この地がここまでさかえるのには、豊かな広い土地に恵まれていたこともさることながら、先人のなみなみならぬ努力や苦勞があったのです。その先人の一人が**後藤寿庵**です。



奥州市の小学校社会科副読本『私たちの奥州市』には、**後藤寿庵**について次のように書かれています。

「・・・江戸時代の初めのころ、この地方をおさめていた伊達政宗は、用水路を掘って水を引き、田を開いて米が沢山とれるようにすることを地方の領主に命じました。そのころ、南都田や佐倉河には早くから**茂井羅堰**という用水路があって、水田が開け、米を作って豊かな暮らしをしていました。それを見た福原の領主**後藤寿庵**は、胆沢川の上流から水を引いて用水路をつくれればよいと考えました。しかし村人たちは「それは、人間の力では無理な工事です。」と反対しました。それでも寿庵は「こんな広い土地をそのままにしておくべきではない。」といて、毎日家来を連れて胆沢川の流れや土地の様子を調べて歩きました。しかし、川の水は荒地より3メートルも低いところを流れているので、取り入れ口を探すのに苦勞しました。



写真：寿庵堰取水口と現在の寿庵堰(胆沢平野土地改良区資料を参照)

キリシタンであった寿庵は、キリスト教の宣教師から外国の新しい知識をたくさん学び、そのことをもとに、夜中までちょうちんの灯りで土地の高低を調べながら工事を進めました。当時は、今のような便利な機械はなく、土を掘るのも、掘った土を運ぶのもすべて人の力ですすめられ、やっとでき上りそうになっても嵐がやってきて、荒れ狂った川の水が水門を飲み込み、川底を削ってしまうことが何度もありました。寿庵は、「嵐になっても流されない水門を築くのじゃ。」といい、先に立って働き続けました。村人たちは、寿庵の心にうたれ、寿庵の手足になって働きました。年寄りから子供まで、みんなで力を合わせて働き続けたと言われています。

しかし、そのころ、幕府がキリスト教を禁止したため、キリシタンの取り締まりを厳しくしました。どんなことがあってもキリスト教を信仰しようとした寿庵は、工事をなかばにして、政宗に追れて福原の地をやむなく去りました。

**寿庵の始めた『寿庵堰』の工事**は、その後、キリスト教信者で、寿庵に心服していた**千田左馬(前沢)**と**遠藤大学(前沢)**が引継ぎ、いくつもの困難を乗り越えながら、堰は**1631年(寛永8年)**に完成し「**寿庵堰**」と呼ばれるようになりました。

そのおかげで、水がとうとうと流れ、この地は豊かな米どころとなりました。」



胆沢扇状地：図の上方の紫太線は茂井羅堰 緑太線は寿庵堰